【樹木・草花の部屋】

クリ（ブナ科クリ属　Castanea crenata）

和名；栗　　別名；　英名：Japanese Chestnut
　ブナ目　落葉高木
原産地；日本・朝鮮半島南部
花言葉；贅沢
花の色；

⇒　写真－１　クリの樹形
撮影日：２０１２年８月３０日
撮影場所：岡山県倉敷市にて
撮影者：M さん

帰省した際、窓越しにお隣の立派なクリの木が目に入ったので、写真に撮りました。

写真－２　クリの葉　　⇒
撮影日：２０１２年８月３０日
撮影場所：岡山県倉敷市にて

　よくみると。大きなクリの実も・・・。毎年、目にしてはいたのですが、今回はジックリと観察させていただきました。

【樹木・草花の部屋】

写真－3　クリの実　　⇒
撮影日：２０１２年８月３０日
撮影場所：岡山県倉敷市にて

普段、クリはクリご飯、蒸しクリ、焼クリなどで食べますが、渋皮取りが結構、めんどう。ついつい敬遠気味。味もいまいち。初詣の際、屋台の天津甘栗を時々購入しますが・・。こちらは少し味付けがされているようで・・・。クリと言えば別府の高崎山のお猿さんが喜んで食べているの見た遠い記憶にあります。

＜ちょっと一言＞

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で、渋皮剥皮性の優れたニホングリ品種「ぽろたん」(2007 年 10 月 22 日品種登録）が育成されたそうで、出回ると食べやすいかも・・・。

クリのうち、各栽培品種の原種で山野に自生するものは、シバグリ（柴栗）またはヤマグリ（山栗）と呼ばれ、栽培品種はシバグリに比べて果実が大粒。また、シバグリもごく一部では栽培されているようです。

雌雄異花で、いずれも 5 月から 6 月に開花。雄花は穂状で斜めに立ち上がり、全体にクリーム色を帯びた白で、個々の花は小さいものの目を引く。また、香りが強く非常によく昆虫が集まる。ブナ科植物は風媒花で花が地味のものが多いが、クリやシイは虫媒花となっている。

一般に雌花は 3 個の子房を含み、受精した子房のみが肥大して果実となり、不受精のものはしいとなる。9 月から 10 月頃に実が成熟すると自然にイガのある殻斗が裂開して中から堅い果実（堅果であり種子ではない）が 1 － 3 個ずつ現れる。

果実は普通は他のブナ科植物の果実であるドングリとは区別されているようですが、ブナ科植物の果実の総称はドングリ。したがって、広義にはクリの実もドングリ。また、毬状の殻斗に包まれていることからこの状態が毬果と呼ばれることもあるが、中にあるクリノミ自体が種子ではなく果実であるため誤りである、毬果とは、松かさのようなマツ綱植物の果実を指す。

クリの木は堅くて腐りにくいので、建物の柱や土台、鉄道線路の枕木、家具等の指物に使われていましたが、近年資源量の不足から入手しづらくなったそうです。成長が早く、よく燃えるので昔は薪木としても使われていたそうです。ちなみに、縄文時代の建築材や燃料材はクリが大半であることが、遺跡出土の遺物から分かっているそうです。

＊甘栗(天津甘栗)；シナグリ（支那栗、学名：Castanea mollissima）はブナ科クリ属の落葉高木。原産地は中国大陸″